



下村健一の「手づくり動画」ウオッチ

「東 京上空を初飛行」
とか「佐賀空港へ」

とか、このところ、またニュースをにぎわせた新型輸送機オスプレイ。その沖縄配備が激論になっていたさなか、一人の女子大学生が手作りした動画「Gray Zone」(グレイ・ゾーン) =写真= は、どんなテレビ局の特集より深く、私の心に刺さった。

沖縄生まれ特有のナレーションで、米国のことを「アメリカー」と毎回語尾を伸ばして発音する彼女。物心ついた時から、風景の中には米軍基地のフェンスがあるのが「当たり前」だった。高校での同級生たちとのたわいないガールストーク風の会話では、こんな言葉が発せられる。「(基地に経済が) 頼り過ぎて、いきなり無くなったら沖縄県倒れると思うから」「(反対の) 県民大会やっても、どうせ何も変わらないでしょ? 内地の人には、ヨソ事なんでしょ?」

カメラは、“内地、人が見慣れた基地反対運動のスローガンだけでなく、こんな言葉の横断幕も映し出す。「オスプレイ配備阻止で日米同盟を壊すな!」

さまざまに揺れる本音を描いた後、画面は突然真っ黒になり、中央にポツリと

元TBS局アナ兼取材記者。報道番組などに出演するかわら、一般市民の映像制作を支えるアドバイザー歴14年。現在、慶応大学特別招聘教授(マスコミュニケーション)

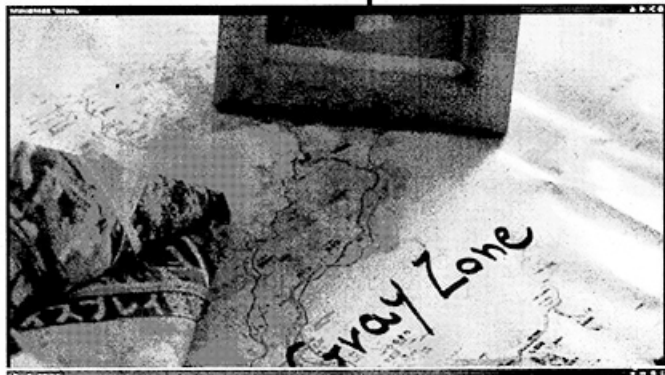
テレビの特集より深く

一言、こんな字幕が現われる。

「無い方が、いいけれど……」

昨年度のTVF(東京ビデオフェスティバル)で、この作品は筑紫哲也賞に選ばれた。沖縄に強くこだわっていた筑紫さん。ご遺族は、選評でこう語った。

「その何も繕わない率直な姿に、ぐっと引き寄せられました。複雑なことを



複雑なまま声にした『Gray Zone』。その声が、多くの人に聞こえることを願って」

今年もまた、TVFの作品募集が始まった(9月30日まで)。たくさんの新たな手づくり動画との出会い、本当に楽しみだ。

☆「Gray Zone」12分半 / 塚原真梨佳(当時20歳)作
【視聴するには】

「Gray Zone」 「TVF」
でネット検索

※次回は8月29日掲載